

サッカー全国大会初出場を遂げた無名校が常連校となるための方策

トップスポーツマネジメントコース

5015A316-5 樋口 恵輔

研究指導教員：平田 竹男 教授

1. 序論

高校サッカーの最高峰として全国高校サッカー選手権大会が存在する。2005年度から2014年度の過去10年間で優勝校は毎年変わり、2度優勝した高校もない。過去10年の初出校は63校ある。そのうち初出場時より3年前の成績が地方予選ベスト8未満の高校は27校である。本研究を進める中で全国的強豪校が備える方策について調査したところサッカー専用グラウンド、学校に隣接した寮、選手獲得の3項目であった。この3項目を、初出場を果たした27校にあてはめ、常連校になるための方策として3項目が有効であるかを検証する。

これまで高校サッカー部に関する研究は、古賀ら（2013）のJユースと高校サッカー部における指導哲学の比較に関する研究や、義岡ら（2012）の高校生サッカー選手に必要な基礎体力を総合的に改善するためのボールを利用したトレーニングプログラムに関する研究はあるが、サッカー部の方策に関するものは見当たらない。

2. 目的

本研究の目的は、3年前まで地方予選ベスト8未満で敗れていた全国的無名校が、全国高校サッカー選手権大会において初出場後、常連校となるための方策として3項目が有効であるかを明らかにすることである。

3. 研究手法

(1) 対象：全国高校サッカー選手権大会に

おいて過去10年（2005年度から2014年度）の初出場校63校のなかから、初出場時より3年前の成績が地方予選ベスト8未満の高校の公立高校9校、私立高校18校、計27校を対象とする。

(2) 方法：対象校の初出場後の戦績を調べると同時に対象校27校に対して以下の項目の有無について調査する。

①グラウンド

②寮

③選手獲得

また、対象校の背景における特徴を見るため、以下の3項目についても併せて調査する。

①加盟校数

②過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数

③対象校の所属する地域におけるJリーグチームとの関連性

4. 研究結果

対象校27校に関する3項目を調査した結果、項目ごとでみるとグラウンドは27校中21校、寮は27校中16校、選手獲得は27校中17校であった。また3項目全てを満たすのは10校、2項目を満たすのは7校、1項目のみを満たすのは10校であった。初出場を果たした後も全国大会に複数回出場できた学校は27校中12校であった。

対象校地域の加盟校数の最多は東京で351校、次いで大阪239校、神奈川235校。最少は高知の36校、次いで奈良39校、山

梨 40 校であった。全国大会出場校数では帝京大可児の岐阜だけが 2 校で千葉、群馬、三重、鹿児島で 3 校の出場している。その他は 4 校以上が出場している。J リーグクラブとの関連性については、対象校の 22 の地域のうち 18 地域に J リーグクラブがあり、三重、奈良、高知、鹿児島の 4 つの地域には J リーグクラブがないことがわかった。

5. 考察

(1) 3 項目に関する考察

3 項目を満たしている 10 校中 7 校は初出場後も継続的に全国大会に出場しており常連校となっていると考える。3 項目を満たす学校がいかにか常連校になる可能性があるかわかる。特に流通経済大柏は、2005 年度大会の初出場後、2007 年度大会で優勝、2010、2014 年度大会はベスト 4 と全国大会に出場すれば安定して好成績を残しているため常連校となるばかりか強豪校になったと言える。2 項目を満たす学校は 7 校中 2 校が複数回出場している。その 2 校は札幌大谷と常葉橘であるが 2 校とも 3 項目を満たすに限りなく近い条件を備えているため 3 項目を満たすことに準拠すると考えられる。1 項目を満たす学校は 10 校中 3 校が複数回出場している。京都橘や駒澤大学高校は選手獲得の 1 項目だけを満たし複数回出場している。2 校は指導体制が確立し明確なビジョンをもとに運営されているため、そこへの共感から選手獲得を成功させ常連校になることができたと考えられる。これは 3 項目において選手獲得が特に重要であると示唆される。

(2) 対象校の背景に関する考察

対象校地域における加盟校数の最多は東京で 351 校、次いで大阪 239 校、神奈川 235

校である。対象校の複数回出場している地域では東京、千葉、埼玉は比較的多く激戦を勝ち抜いて常連校になっていると考える。対象校地域の全国大会出場校数は東京の 9 校が最多で、埼玉、大阪が 6 校で続く。出場校数が多いということは予選が激戦区であると考えられる。しかしそこを勝ち抜いても全国大会では結果を残せていない現状がある。千葉は 3 校と比較的少ないが、千葉の代表校は毎度上位進出していることが多く、出場校数は少ないものの最激戦区と言えるのではないか。J リーグクラブとの関連性について、複数回出場の 12 校の 11 地域では鹿児島と奈良を除く 9 の地域に J クラブが存在する。鹿児島と奈良にも J リーグ入り目指すクラブがあり、準拠していると考えられる。J リーグクラブが地域にあることで、地域の育成年代のレベルは高くなり、その環境で育った選手が地元のチームに入ること、地域全体のレベルは一層向上していくと考える。

(3) 研究の限界

本研究では、3 項目に絞って対象校に関する調査を行ったが、必ずしも 3 項目だけが常連校になり得る項目とは限定できない。そのため本研究とは異なった観点からの研究を行い、常連校になる可能性がある要因を探ることを今後の課題とする。

6. 結論

本研究の対象校 27 校のうち、複数回出場できたのは 12 校であった。そして、この 12 校のうち、3 項目を満たしている学校は 7 校あり、これら 3 項目を満たすことで必ず勝てるようになるとは断言できないが、常連校になるための有効な方策であるということが示唆された。